

平成23年度「離島の活力再生支援事業」の選定結果（概要）

○選定された応募団体名、案件名（概要）

応募団体名（対象離島名）、案件名	概 要
大島地区振興協議会（宮城県気仙沼大島） 「つばきの島復興 21 世紀プロジェクト」	東日本大震災で被災した気仙沼大島で、地域の未活用資源である「やぶ椿」の森を新たな産業振興と観光の資源とし、自然環境を保全しつつ再生する「つばきの森づくり」を展開し島の復興に取り組む。毎年収穫される天然のつばきの実や花を原資とする持続性、継続性のある産業振興を図るため、安全で信頼性のある高品位な付加価値を持った椿油等の商品を開発し、既存の海産物と組み合わせて販売することで事業に従事する島民の収入の増化を図るほか、椿の実の収穫体験等を通じた島の観光振興への波及効果も視野に入れて取り組む。つばきの森の拡張を進めながら、地域における新たな雇用の創出をめざす。
海士町役場（島根県中ノ島） 「島まるごと教育ブランド化事業」	U I ターンの定住促進と地域で仕事を自ら創造することのできる地域起業家的人材の育成の両方が課題となっている。島内の教育環境を充実させ、教育の島としてのブランドを確立する「人づくり島」構想の推進が、これらの社会的なニーズや課題を満たしながら、町の抱える課題を同時に克服する手立てであると考えている。 具体的には、定住その他に資するため、1. 隠岐島前高校の魅力化に最優先で取り組み、2. 島内のリソースを最大限に活用した学び場をつくる「島まるごと大学」構想の軌道を軌道に乗せ、ブランド化に向けた島内の体制を整える。
企業組合五島列島ファンクラブ（長崎県五島列島） 「五島列島「食」の世界遺産運動 …… かんころりんプロジェクト…」	教会集落で引き継がれてきた「食文化」を地域の優れた資源として再評価・再認識し、主たる地域の生業として確立させる。優れた「さつまいも」の特産品として従来にない発想で商品開発を行い、このため、荒廃しつつあるさつまいも栽培の需要を喚起し石積み段々畑を再活用し、教会集落の文化的景観の維持・保全を実現する。
一般社団法人へきんこの会（鹿児島県口永良部島） 「150 人の島から創造する日本の未来」	今年度は 22 年度の事業を通じ整理した課題のうち、特に島民の要望の強い定住者の受け入れ体制の構築に重点を置いて取り組む方針。 屋久島など他の離島や都市部の企業や団体との連携により、口永良部島の島民が望む定住者を創り出す仕組みを構築するとともに、その仕組み自体を離島の新しい経済基盤とすることで、定住者の仕事をも創出することを目標とする。
新大島紬プロジェクト実現委員会、奄美群島広域事務組合（鹿児島県奄美群島） 「地域自らが考え実現する地場産業の再生 ～新大島紬プロジェクトの実現～」	大島紬は、高齢化の進行もあり、工芸品としての古い生産体質のため存続すら危ぶまれている。昨年 5 月、有志により「新大島紬プロジェクト実現委員会」を立ち上げ、「地域自らが考え実現する地場産業の再生」を掲げ、活動を開始した。 産地一体となった取り組みの実現を想定し、大島紬の伝統と技術の価値を継承しつつ、従来の大島紬の枠を越えた消費者が求める「新大島紬」を創出することを目指している。
ヨロン島観光協会（鹿児島県与論島） 「島食材を使ったヨロンフードアイデンティティの確立」	地域の食文化はその地域の特色や風土を伝えるものであり、個性そのものであることから、ここ与論島においても、「与論たらしめるもの」を示す「与論フード」を島産食材を用いて開発し、「与論フードアイデンティティの確立」を目指すきっかけを本事業によってスタートさせる。 閑散期の観光開発への取組のひとつとして、奄美でもない、沖縄でもない、与論フードアイデンティティをなる「名物料理」「通信販売向け商品」を開発し、島内外に「食」を通じた接触人数の増加を図ることで、年観光客数 10 万人、年間通販顧客数 10000 人を 3 力年で達成することを目指す。

○お問い合わせ先

国土交通省国土政策局離島振興課 芦原、仲野

TEL : 03-5253-8111(内線 33-144, 33-134) 直通 : 03-5253-8421